

平成29年度 学校自己評価システムシート（東京農業大学第三高等学校・附属中学校）

目指す学校像	① 丁寧な進路指導にて、進学実績を伸ばす。 ② 部活動の強化により、学校に活力を与える。 ③ 生活指導を徹底し、生徒の質を高める。 ④ 私学としての特性を生かし、掲げた学校改革を進める。 ⑤ 志願者を増加させ、定員の確保を目指す。 ⑥ 財政の健全化を目指す中で、生徒への教育サービスを向上させる
--------	--

重点目標	1 コースと教科の双方の連携を密にし、指導態勢の充実と向上に努める。 2 私学としての特性を生かし、学校改革に努める。 3 実験・体験・観察を重視する中で、創造的・能動的な学習スタイルを育成し、知識や技能を活用できる生きた学力を育成する。
------	---

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価							
年 度 目 標				年 度 評 価 (3 月 末 現 在)			
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	全生徒の学力と進学実績の向上のために、全教員の教科指導力・進路指導力・生徒指導力を向上させることを目指す。 生徒による授業評価、教職員の内外の研修会への積極的な参加、研究授業や授業参観およびFDの外部評価の実施と研鑽、さらに大学入試問題研究等を実施しているが、工夫と努力が必要である。	① 教科指導力の向上 ② ホームルーム運営 生活指導力の向上 ③ 進路指導力の向上	① 生徒による授業評価 ・内外の研修会への積極的参加と教職員間での情報の共有 ・授業見学・参観の計画的実施 ・大学入試問題研究の積極的実施と教科指導への活用 ・教職員へのFDの実施 ② 基本的生活習慣の確立 ・学習習慣の確立 ・ネットリテラシー教育 ③ 進路意識の向上 ・入試に関する研修の積極的な参加と学年・教科による情報交換	① 授業改善への取り組み ・研修会への参加と報告内容 ・授業見学・参観数 ・FD評価者による評価と各自の研鑽 ② 基本的生活習慣全般の評価 ③ 進学実績の年度別累計比較と指導内容別の振返り	① 教科指導の向上に努力している。 ② 生徒への指導を工夫し努力している ③ 国公立・難関私大への合格率向上に努め成果を収めたが、更なる努力が必要とされている	① B ② B ③ B	① 各コース・教科において、授業での教授方法の更なる改善(定期的なコース会議)と授業内容の再検討 各教科において3年間を見据えた授業展開の計画と実行を確立する ② 生活リズムの改善と校内自学習と家庭学習の定着 ③ 大学入試に関する研究、入試状況の情報入手とその理解 進学実績の更なる向上を図る
2	掲げた学校改革の新コース制(I・II・III・中高一貫)のそれぞれの教育プログラムの現状認識と改善点を列挙し、さらなる教育目標の到達や教育内容の充実を再検討し、それらを実行するための課題を総合的に把握して、それぞれの課題を解決しようとしている。	① 受験者数の増加とコースごとの適正な入学者数の確保 ② 教育課程の再検討 ③ 進学実績の更なる向上 ④ 生徒会活動・クラブ活動の活性化	① 学校の方針・教育内容・特色の理解の徹底と積極的な募集活動 ② 生徒の実力を更に伸ばす教育課程を検討・編成する ③ 生徒の進路実現を図り、進学実績を更に向上させる ④ 部活動・生徒会活動の自主的活動を支援する	① 受験者数とコースごとの入学者数 ② 新教育課程に基づく教育内容実現の検証・評価 ③ 進路目標の設定とその実現方法の検証・評価 ④ 部活動・生徒会活動支援についての検証・評価	① 受験者数が減少したことと、コースごとの適正な入学者数に関して、必ずしも十分とはいえない。 ② 教育方針・教育内容・新教育課程の検討等を行い、その取り組みについて検証している。 ③ 授業力と進路指導力の向上に努力をしている。 ④ 学校行事への自主的活動を発展させている。	① B ② B ③ B ④ B	① 受験者数の増加のみならず、コースごとの適正な入学者数の確保が課題 ② 30年度から実施される教育方針・教育内容・新教育課程等の実施状況と問題点の確認・検証、更なる検討 ③ 生徒の学習意欲の向上の為の取り組みと、自主学習の定着、進路意識の向上と進路選択力の育成 進路意識向上の為の、生徒への働きかけやアプローチの充実 人的資源を活用したキャリア教育のさらなる充実 ④ 全校生徒の積極性や協調性を涵養する。
3	附属中学校の特色として、机上の学習だけでなく様々な体験・実験・観察を通して学びの本質を追究する「実学教育」をベースに教育活動を実施することを重視し実践している。	実験・体験・観察を重視した科学的・学問的探究の精神・態度の育成	① 「総合的な学習の時間」の一環としての屋上菜園での大豆栽培と醸造体験(味噌作り)、稲作、畜産体験等を実施 ② 博物館研修における調べ学習とプレゼンテーションの実施 ③ 理科・社会の授業での実験・社会参加等の実践	① ～ ③とも 実施状況・内容の検討、生徒の知的好奇心が育ち、能動的・主体的学習姿勢が確立されたかについて検証・評価	① ～ ③とも 本校の教育活動のベースとして着実に実施し、知的好奇心と探究心を涵養することができた。	① A ② A ③ A	生徒の知的好奇心を刺激するだけでなく、探究心を涵養し、能動的・主体的な学習姿勢の確立に結びつけていくには、基礎的な知識の確実な定着が前提となる。そのためには、「実学教育」と「知識の定着を図る学習」をいかに融合させていくかの工夫と指導力が必要である。30年度では校外学習の取り組みをさらに強化し、各教科で主体的な学びの場を数多く提供する。